

普及活動情勢報告（平成20年11月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

～目標を持った経営をしよう！～ 個別の目標設定に取り組み



「親子とカウンセリング中」
「前作の問題は、今作で絶対に解決しよう！」
「家族で役割分担を決めて、皆が責任を持つようにしたら？」

J A土佐あき安芸市青色申告会が、個人ごとの目標設定に取り組んでいる。事前に一人一人のカウンセリング・シート（19年度決算書と20園芸年度の月別出荷量）を整備し、9月の講習会から農協と農業振興センターでカウンセリングを実施。経営の課題や対策、21園芸年度の経営目標を立てていった。

9～10月で24戸のカウンセリングを行い、うち6戸が目標設定シートを完成させた。残りの18戸についても、納得のいく目標設定ができるまでカウンセリングを繰り返し、検討を重ねていく。さらにカウンセリング未実施の農家に対しても、順次、講習会で取り組んで行くこととしている。

目標設定に取り組んだ農家からは、「今作は、自分で月別収量をつかんでいく。」「息子にももうちょっと栽培の基本を学ばせていきたい。」など、様々な意見が出され、さっそく目標に向けて動き出した農家も大勢いた。

中芸地区で土着天敵の野外採取



11月6日に吸虫管づくりや土着天敵の勉強会と併せて野外採取を開催。

既に土着天敵を活用している者やこれから導入をしようと考えている22名の参加があった。目的は、土着天敵の採取とどのような虫か実際に見て覚えてもらい、活用を促進すること。

少なかったが、クロヒョウタンカスミカメ、コミドリチビトビカスミカメ、ヒメハナカメムシなどが採取できた。参加者からは、「これがそうやろうか」、「土着天敵がおるもんやね」などの声が聞かれた。

今後とも土着天敵の活用を通じた環境保全型農業の推進と産地のまとまりづくりに向け、農業振興センターとしても支援をしていく。

農村女性リーダーと農業振興部長との意見交換会



安芸・室戸地区農村女性リーダー協議会は11月10日農業振興部長との意見交換会を開催した。農村女性リーダーは10名出席し「学びあい男女（とも）に育てる産地のきずな（サブテーマ：農業振興部長を囲んで本音で語ろう）」をテーマに部長は「高知県の農業分野の産業成長戦略」や「本県の流通販売構造」について語り、女性リーダーからは県庁食堂でのナス料理のメニュー化など消費拡大方法等について意見が出された。後半は女性リーダーお手製の料理を囲み懇談した。この会の前段には研修会も設定し「天敵導入ハウス」と「木質バイオマス設置ハウス」を青年農業士と見学した。

行事が盛りだくさんの一日であったが充実感を味わって散会できた。次の行事もエコシステム栽培の研修等を予定しており、引き続き支援していく。

中芸地区農漁村女性グループ研究会の視察研修



研修テーマを「農業と農村を地域で支え合う活動」と「米粉の活用」とし、株式会社大豊ゆとりファームにおけるユズの援農と基石茶の生産・販売の活動、本山町農村女性リーダーの講師による米粉の料理講習を組み込んだ視察研修を開催した。参加者は23名あり、中山間地域のユズ産地だけでなく園芸地帯でも担い手の高齢化少子化による労働力不足がおこっており、ゆとりファームの援農システムは今後の参考になると意見が出た。また、殆どの農家は稲作をしており米粉でケーキやパンができると自給率アップにつながると熱心に料理方法を学んだ。

視察で得られた内容を検討しよりよい産地づくりと自給率向上等につながるようグループ活動を支援していく。

土着天敵温存グループ交流会 in 農業技術センター



地区や品目は違えども、害虫防除に関する課題は同じ。力を合わせて頑張ろう。

11月13日、安芸市内の3つの土着天敵温存グループが現地検討会を行い、18名の生産者が参加した。

土着天敵タバコカスミカメを利用している3圃場（ナス）の視察を行なったが、チャノホコリダニの防除方法といった共通の課題に対して、活発な意見交換が見られた。

その後、場所を農業技術センターに移し、JA土佐市ピーマン部会およびJA土佐いほく米ナス部会との交流会を行った。約40名の参加者は、センター内の圃場視察や情報交換会を通じて、土着天敵の有効性を再確認し、新たな取り組みへのきっかけをつかんだようだ。

一昨年から継続して実施している「土着天敵の産地間リレー」も含め、今後もこのような「産地間の交流」を深める取り組みへ支援をしていく。

篤農家の技術を学び、ナス栽培の基礎を見つめ直そう！～安芸・地区会～



皆で篤農家の肥培管理を学ぶ

21園芸年度の第2回目となる「ナス地区会」が安芸市の各地区で開催された。今回の講習テーマは、①温度管理およびハウス保温対策、②厳寒期の肥培管理、③ナス栽培の経営について、④安芸集出荷場の取り組みについての4点。

11月20日の安芸・北地区会には23名の農家が参加し、講習後の現地検討会として、地区内で高収量をあげている「篤農家」の圃場を視察した。JAから篤農家の耕種概要を説明した後、農業振興センターから土壌溶液分析結果を基にした篤農家の肥培管理の経緯について解説した。

参加農家から「やっぱり上手い！」と言う驚嘆の声が上がる一方で、灌水方法や整枝・摘葉方法などの基本的な栽培技術について、篤農家の考え方を尋ねる姿も多く見られた。

北川ゆず部が主体となった出荷動向中間検討会の開催



関係機関が集まったの熱心な検討

北川村では、10月22日よりゆずの搾汁作業が始まっている。

11月5日は、収穫作業の繁忙期だが、ゆず部役員、JA本支所、北川村役場、農業振興センターが一同に会し、現状の柚子出荷動向と対策及び次年度設置予定の搾汁施設の検討会を開催し、助言指導を行った。

本年度の出荷動向は、前年同期に比べて約3倍の200tの集荷結果となっている。この原因は、JAの1,000t出荷目標に向けた運動、集荷時の玉の着色を5分着色への変更、また関係機関が行った戸別訪問等があげられる。この結果には、参加者から驚きの声や取り組みの効果について評価する意見が出された。但し、1,000t出荷目標に向けては、より一層の働きかけが必要であることが確認され、ゆず部・JAから全部員に「JA出荷」を呼びかけるチラシを早急に配布することとした。

新施設は、村の課題である系統外農家も含めた施設利用を目指してきた。これまでに、農家の声やJA出荷の意向を把握するため戸別訪問を行っており、その結果についてJAより報告があった。

施設整備に向けた議論では、ゆず部が主体的な判断を行い、系統外農家も参加できる規模（搾汁1,200t処理）とすることが決定された。

安芸地区4Hクラブの活動～安芸市産業祭で餅つき～



餅つきの音が響き渡りました。

安芸地区4Hクラブが、11月15日16日の両日開催された安芸市産業祭で、毎年恒例の餅つきを行った。当日はクラブ員約15名が参加。用意した餅米180kg分のつきたての餅は2日目の昼には完売した。

この餅米もクラブ員の水田で収穫されたばかりの新米を用いたもので、「つきたての餅はおいしい。毎年買いゆうきねえ」「ありがとう、また来年もこうてよ」と幅広い年代の方と交流を深めることができた。クラブ員からは「来年は餅米をもっと増やいたらどうやろう?」「来年は別のこともやってみよう」など意欲的な声も聞かれた。今後も、若手の農業者が自主的に活動することができるように支援していく。